

科目名	地誌 Regional Geography						
科目担当者	朝日 克彦 ASAHI Katsuhiko						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 自由科目] 他学部他学科履修○					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	地球上の各地は、その自然条件や歴史、宗教観などさまざまな要素を背景として、人々の生活や生業形態には著しい「違い」がある。また同時に、環境問題や食糧、資源、貧富などの様々な問題にも直面している。 そこでこうした各地の「違い」について、その背景を解説したのち、各地の実相に迫る。これらを通して「違い」を乗り越える力を養う。						
授業の到達目標	教職課程、地歴科及び社会科の教科科目である「地誌」について、 ① 世界の諸地域に関する基本的な理解し、説明できる。 ② 世界の諸地域の違いとその背景事情を理解し、説明できる。 ③ 「違い」の背景を理解し、「違い」を咀嚼できる。						
授業計画・内容	1	イントロ 講義の進め方、受講の仕方、違う地域を理解するとは					
	2	世界を文化、宗教から見る					
	3	世界を自然環境から見る					
	4	世界を人口・居住から見る					
	5	世界を資源・産業から見る					
	6	世界を流通・交流から見る					
	7	東アジア地誌					
	8	東南アジア地誌					
	9	南アジア地誌					
	10	アフリカ地誌					
	11	ヨーロッパ地誌					
	12	北アメリカ地誌					
	13	南アメリカ地誌					
	14	オセアニア・南極地誌					
	15	グループワーク：「違い」の超克					
授業外学修 (事前学修)	指定教科書のうち、次回講義内容の地域について読んで講義内容（6回まで）、当該地域の自然環境、民族や宗教、文化、産業（7回目以降）について把握するとともに、重要な用語（キーワード）の意味を事前に調べ、講義に臨むこと。（毎週1時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	前半で1回、後半で1回、そこまでの内容を踏まえて、自身が関心を寄せる事象についてレポートにまとめ、提出。レポートは教員からの指摘を踏まえて再提出もあり得る。 （45時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	予習チェック 課題（レポート2回） 定期試験（講義の理解度）				30% 40% 30%	①、②、 ①、②、③ ①、②、③	
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	高等学校検定教科書『高等学校 新地理総合』、『新詳 地理探究』ともに帝国書院。						
参考文献	矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛尾雄矢編（2017）：『地理学基礎シリーズ 3 地誌学概論 第二版』。朝倉書店、ISBN 4766426525						
その他	この講義は世界地誌を扱う。日本地誌は『日本地域形成論』で解説する。						